

プロジェクトを円滑に進めて成功させるポイント

その2 誰をプロジェクトメンバーにするか？

地域活性化事業や、地域産品開発などの場合、その地域内のメンバーで構成する委員会や協議会を設置して事業を進めていくケースが多くあります。この会議のメンバー構成がとても重要です。誰をメンバーに入れるかでプロジェクトの成否が大きく変わるといっても過言でないと思います。

ある地域産品開発のプロジェクトメンバーは、行政、JA、商工関係の事務スタッフで構成されていました。誰もモノを作って売ったことがない人たちばかりでした。こういったメンバー構成の場合は、私がファシリテーターとして会議に参加しますが、方向性やコンセプトを作るのも大変です。

実際にモノをどこでどうつくるのか？どこでどう売するのか？といった視点も情報や経験もほとんどないので、そのメンバーの話合いの中で決めたプランは「無理のある絵に描いた餅のような話」になってしまいがちです。モノ作りや売ることを知っている産業のメンバーがまったく入っていないのは片手落ちです。

またこういった協議会パターンの場合、責任の所在があやふやになることもあります。行政関係に多いのは、協議会のメンバーは、頼まれて参加しているというスタンスですから、主体性のない組織になりがちだからです。主体性のないところから、良いモノはなかなか生まれませんよね。結局、「想い」のないプロジェクトはうまくいかないのです。弊社の仕事は、メンバー構成のアドバイス、メンバーをいかに主体的にして「想い」をもってもらうかを、プロジェクトを推進するプロデューサーとしてお手伝いを行っています。